

味深長なり此種の書冊中也有の鶉衣は其文簡にして意暢ひ筆鋒自在變幻極まりなく最も有名なり
西蕉の奥の細道は一種の文体をそよへて面白し也有のとそれの今一步すすみたるものなり

百蟲譜(鶉衣中)

横井也 有

蛙は古今集の序にもかゝれてよき、歌よみの部に思はれたること幸ふれ、臘月夜の風あつ
まきて、遠く聞ゆるはよ。古池に飛んで翁の目ざましたれば、此物の事さらにも誇りが
たし

蝸牛齋頌

全 人

箱による物は、風のおそれあり、土にかくるものは、雨のうれへあり、かの車胤が、車
二つに積むと云ひしも、なほ此ものゝ安さにはしかず、あるじはこれにならふものか「巢
てもなく穴にもあらず蝸牛」

當時の俳文は其全盛を極めたるにて後にはまた一轉して狂句川柳とあはれ共は俳諧の變體に
して卑俗猥雑なるものありかゝる變化は和歌にも及びて狂歌といふもの現はれたるその精神散
文も入りて狂文といふものあらはるゝに至れりこれまた滑稽にして野卑なるもの多し其盛な
りきは文化文政の頃なり此時有名なりきは太田覃石川雅望等なりき太田覃は南畝と号し又蜀山
人とも云ひ一には寢惚先生とも号せり幕府の士なり嘗て白河樂翁侯の大に文武を勵まし晝夜と

武道を修めしめしむに太田南畝は

世の中にかほどうるまじきものはなし

ふんぶ云ふて夜も寝られず

と讀みしは人の知る處なり

石川雅望は江戸旅宿の主人にして六樹園と号しその狂名を宿屋飯盛と云ふ其名都下に噴々なり
其著書雅言集覽は古語を集めてその解釋と出所とを明にせるものにて最も有益なるものなり

狂 歌

蜀山人

早 春

生酔の種者を見れば大道を

よこすぢかひに春は來にけり

江戸時代の戯曲及小説

世は泰平になりぬれば泰平につれ愈人の耳目を樂ませ人の嗜を満さんとすべき文學の種類現
るゝと自然の勢あるべし此江戸時代にて最も廣く行はれ最も勢力を有したるは戯曲と小説とな
りき戯曲とは浄瑠璃院本、演劇、脚本、の類にて、事柄を記するに止まらず聲律譜節を主と
し之を三味線に合はせ歌舞伎に演ずるに適すべしと云ふ所したるものなり戯曲には近松門左衛門

を以て其第一とし竹田出近松半二雲平賀鳩磯等亦有名なり元録享保の頃已に盛んなりき小説は最も普通の意識に用ひたる語にして其種類甚多し是は戯曲より一步後れて發達せしか其作者として有名なるは元録の頃井原西鶴自笑其碩等ありて其盛を極めたりすへて小説は此時代の文學の大分、部を占領せるものにして平安時代の文學に於ける物語と文學上の位置を同じくせりその種類を大別せば歴史小説滑稽小説人情小説の三種なり其最も早く發達せしは端物なるが其文章は面白きもの多しと雖も多くは野卑陋穢の文にして識者の譏を免さず其題目さへも好色一代男二代男などありて近來絶版となり發賣を禁せられし程なり後には爲永春水のいろは文庫梅之よみ等ありその卑猥なることまた甚し春水文才ありてかゝる著作を事とせしが是れだに勸善懲惡を主とすと稱へ居れり幕府は之を嚴禁したり宜なりと云ふべし次に發達せしは歴史小説と滑稽小説となり歴史小説は實録物貞雙紙讀本ふとの類を総稱したる名なり其文体の基くところは源平盛衰記平家物語大平記などにて其事柄は多くは往時のことにかゝり仮令現時の事なりとも之を關係ある人物の姓名時代場所等を變換して古くありき事の如くあるしたり是れは則ち時代物といふ所のものなりまた實録物として歴史中の事蹟をとりて之に種々の粉飾を施したるものありて戦記雜討の物語御家騒動等の説話ことに多しその中最も人の愛讀するは大岡名譽政談太閤記等なりまた草雙紙はもと鹿末の小冊子にて淺草の漣返し紙に印刷して臭氣ありきより

貞雙紙と呼び夫より轉じて草雙紙と云ふ是は毎丁挿畫ありて其透き間に平易なる仮名文を以て本文をあるし婦女子童蒙にも讀み易く田舎源氏白繻物語等は爲彦の作にて最も有名なる雙子の一なりまた讀本は陋穢なる種類の小説と禁せられたれば作者はまた如何にかして讀者の嗜好を満さんとし前へに述べし雙子と實録とを混合あたる一の体を書き出したるものなり而して此種の書を書き始めて世人の賞賛を得しは山東京傳なり其著者の有名なるは本朝醉菩提、優曇花物語、稻妻草紙にして京傳の後をうけ遂に歴史小説の泰斗として我文學史上に傑出せるものは曲亭馬琴にして江戸に生れ本名を瀧澤解と云ふ京傳の門に出で實に出藍の譽高し馬琴の著書多しと雖も八犬傳及び弓張月の二書は最も有名なり

滑稽小説

これは趣向を立て脚色を設けて戯文狂文の筆法を以て一篇の小説を綴れるものにして徒然と慰むる伴侶なるのみ著者の有名なるは十返舎一九、式亭三馬ありとすまた其著書として有名なるは一九の道中膝栗毛にして彌次郎兵衛喜太八と云ふ二奇人の紀行を記し失策破綻を以て其骨子とふし各地の方言土音風俗習慣等を寫して誤る處なく道中の千態萬狀寫し得て眞に通り一讀人をして願を解かしむ三馬も亦甚だ滑稽の思想に富み文を草することもまた極めて敏捷にして筆を下すこと飛ぶか如く兩三夜にしてよく八九卷を脱稿し對話の間直に一文を成す事とはく

りければ其著と處の書も亦甚た多く就中浮世床と淫世風呂は最も有名なるものなり

明治二十八年二月十五日印刷
明治二十八年三月五日發行

(非賣品)

著作兼發行者 長崎縣有志教育會本部

長崎縣長崎市新町十四番戶

右代表者

理事 永瀬 伊一 郎

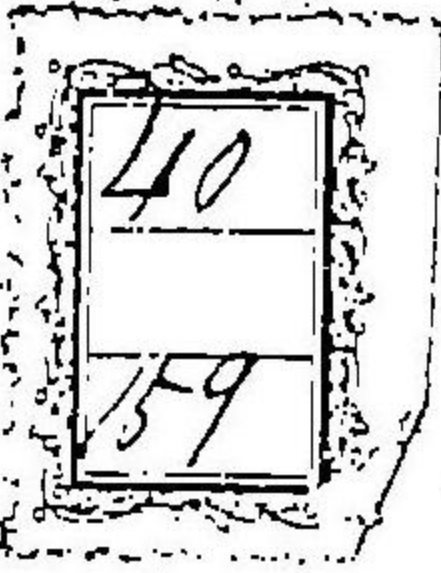
長崎縣長崎市馬町五十一番戶

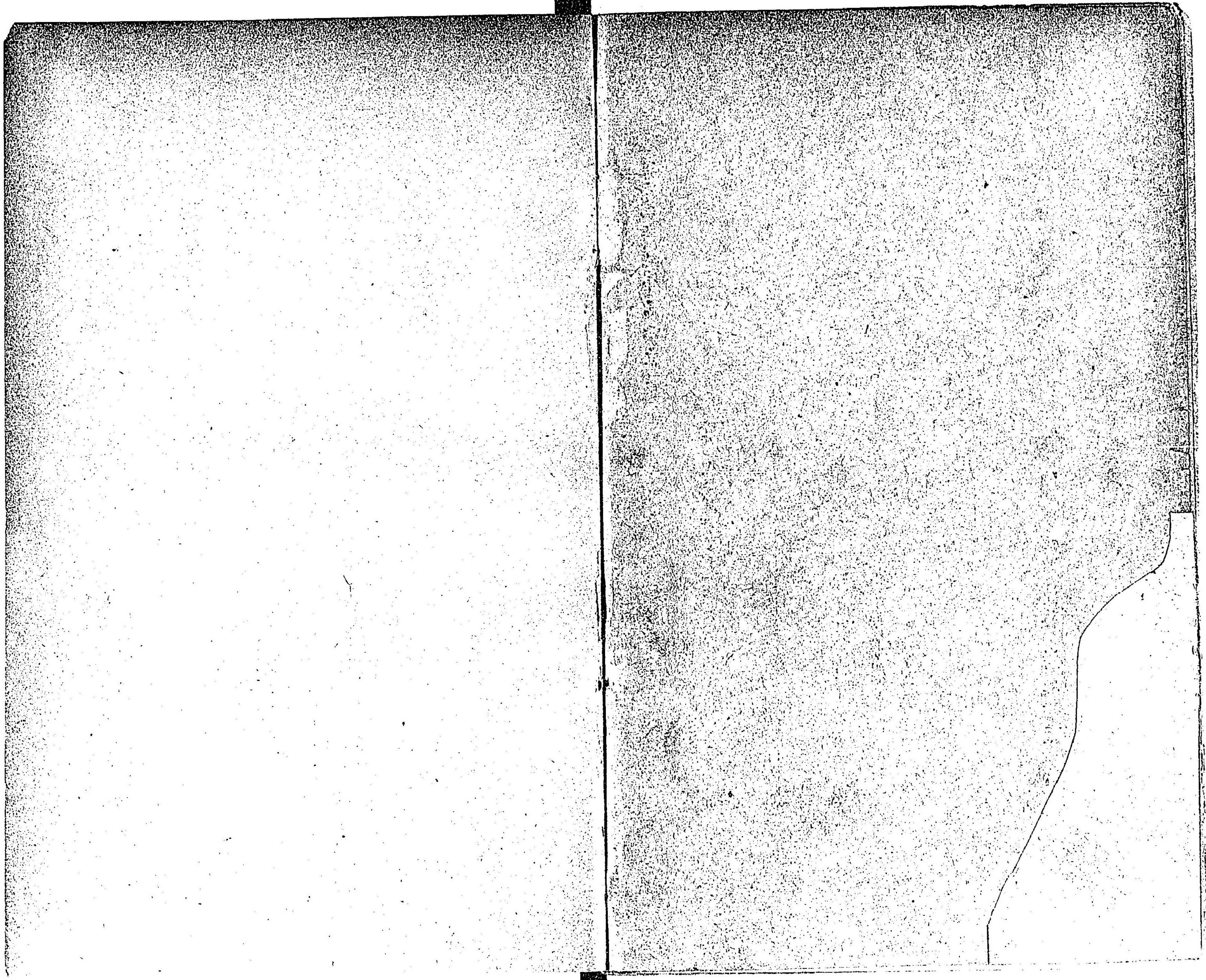
印刷者 前間 友 諒

長崎縣長崎市本大工町六十三番戶

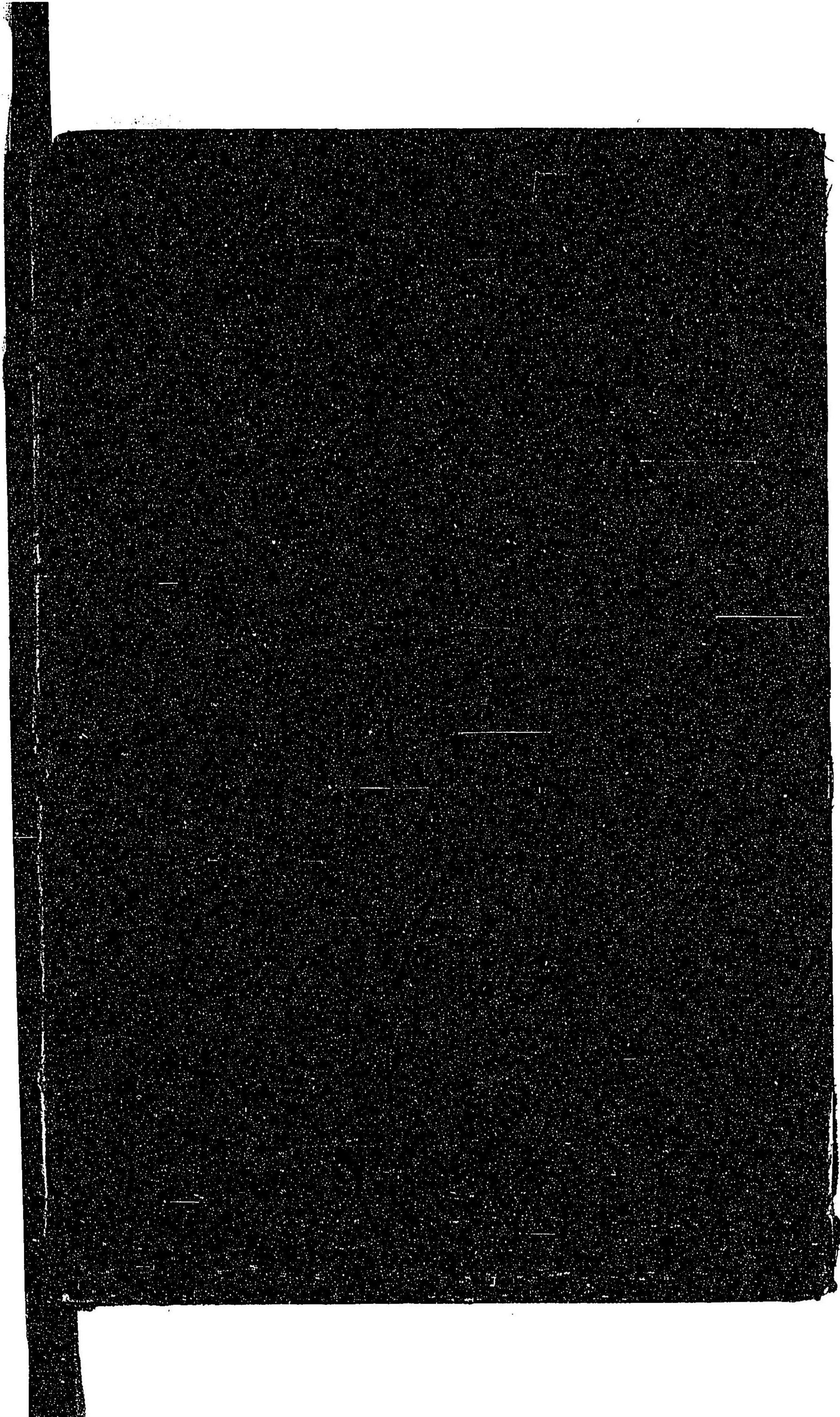
印刷所 城谷活版工場

長崎縣長崎市本大工町六十





40
159



076882-000-3

40-159

国語科講義録

高津 鈿三郎 / 述

M28.3

DAC-0041

